

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉
学 校 名	大阪市立長谷川小学校
学校長名	山口 博功

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長谷川小学校では、第6学年 4名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語が全国平均を4.2ポイントも上回ることができた。これは、昨年度から実に44.0ポイントも上昇したことになる。日頃の学習習慣の定着と、本調査における傾向と対策に力を入れた授業改善が大きく実を結んだ結果となった。算数では、全国平均から14.0ポイント下回る開きが見られた。しかしながら、自校の昨年度と比べると、こちらも26.8ポイント上昇していることが分かった。平均無回答率については、国語・算数ともに0.0%であることから、全ての児童が最後まで粘り強く取り組んだことを、数字の上ではっきりと示している。また、読書の活動にじっくり取り組んだ結果と考えられる。今後も既習内容の確実な定着と、それらを様々な場面で活用していく力を育成していく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕課題として挙げられるのは、「話すこと・聞くこと」の領域であり、他の領域と比べて全国平均、大阪市平均との差がある。今年度、本校の研究テーマの一つとして掲げ、重点を置いて実践している。授業の導入や展開を工夫し適切な課題に向き合い、グループでの話し合い活動を取り入れ、表現することの素晴らしさを実感できるようにする。また、自分の考えの理由を明確にし、自分の言葉でまとめて話せるような学びの場面を多く設定していくことが重要である。

〔算数〕「数と計算」「データの活用」の正答率は、全国平均・大阪市平均にほぼ並ぶ結果となった。一方、「図形」の領域では課題が見られた。作図などの一部の活動では、大まかな特徴が捉えられていればよいとするなど、厳密さを求め過ぎないような配慮をして、図形の学習に対する理解が向上できる指導の充実を図っていく。

〔理科〕「地球」を柱とする領域では、大阪市平均・府平均を上回る得点であった。一方、「生命」を柱とする領域では、問題文を正しく読めていなかったり、思い込みで解答したり情報活用能力に課題があることが分かった。

質問調査より

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」については、「当てはまる」という最も肯定的な回答が100.0%となり、全国平均の82.3%を上回る結果であった。また「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」他についても次々と100.0%となり、学びに向かう適切な学習環境を整えるために実践してきた授業システム改革と、互いを認め合う良質な仲間づくりに力を入れて取り組んできた結果が、学校全体としての落ち着きと子ども達一人一人の心の安定に表れているように思われる。

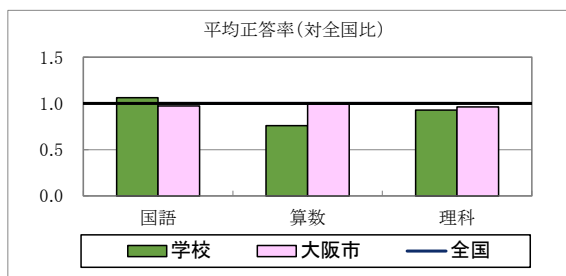
今後の取組(アクションプラン)

本校における課題及び現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究主題を「生きてはたらく力と自ら学ぶ力の育成」と設定した。常に万全の安全対策を図りながら、本物に触れるための校外学習・体験、近隣校との交流活動、トップアスリートや読み聞かせサークル（図書館司書）を招いての出前授業・お話し会にも取り組んでいる。日々の授業においては、いかに「深い学び」につなげていくかを大切に、基礎・基本の定着のための授業づくりに取り組んでいる。今後は、困難な課題に対しても主体的に取り組もうとする未来志向をもった児童の育成を目指し、ICTを効果的に活用した探究学習にも積極的に取り組んでいく。

【 全体の概要 】

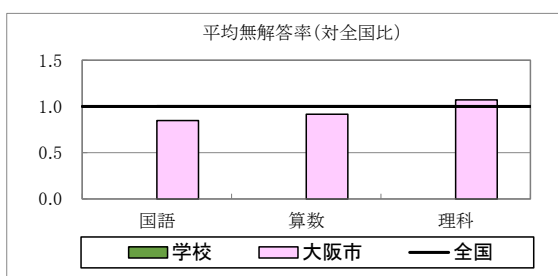
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	71	44	53
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	0.0	0.0	0.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



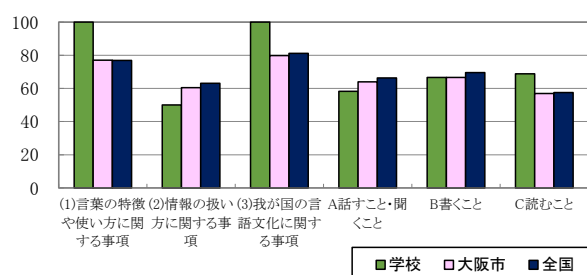
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	100.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	50.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	100.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	58.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	66.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	68.8	56.9	57.5

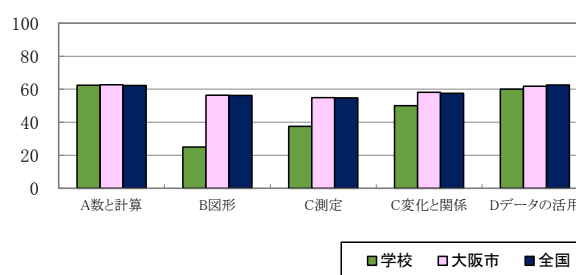
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	62.5	62.7	62.3
B 図形	4	25.0	56.4	56.2
C 測定	2	37.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.0	58.2	57.5
D データの活用	5	60.0	61.9	62.6

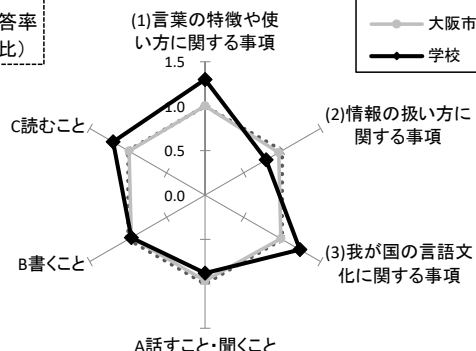
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



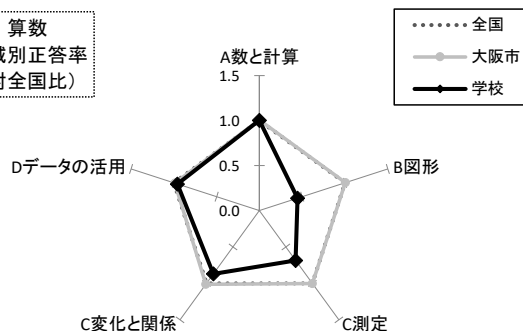
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

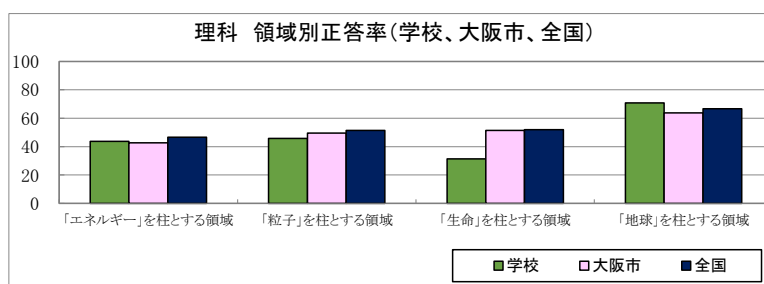


算数
領域別正答率
(対全国比)

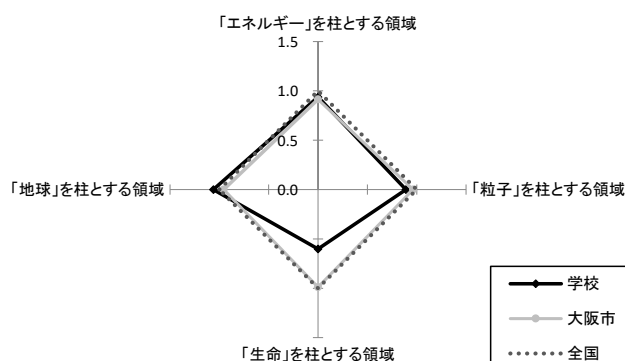


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	43.8	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	45.8	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	31.3	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	70.8	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

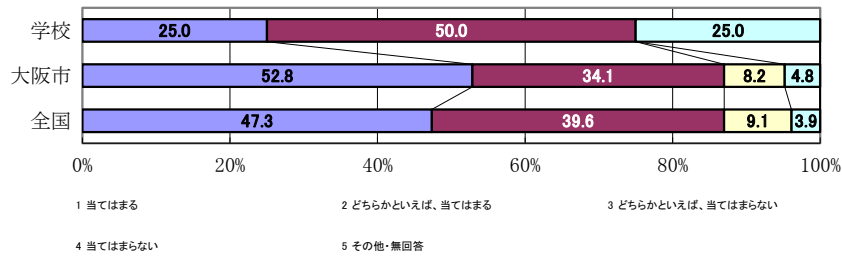
質問番号

質問事項

5

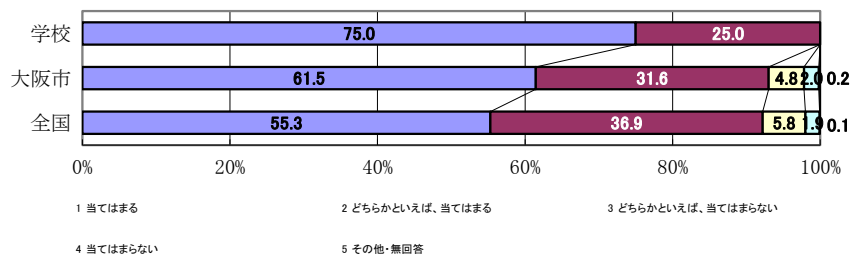
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



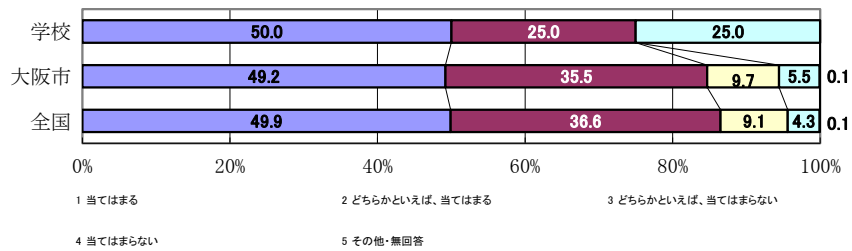
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



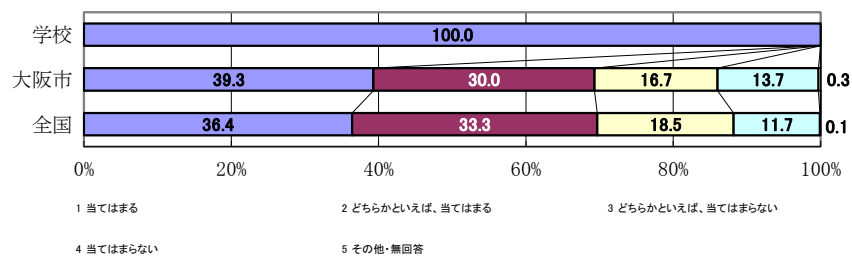
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



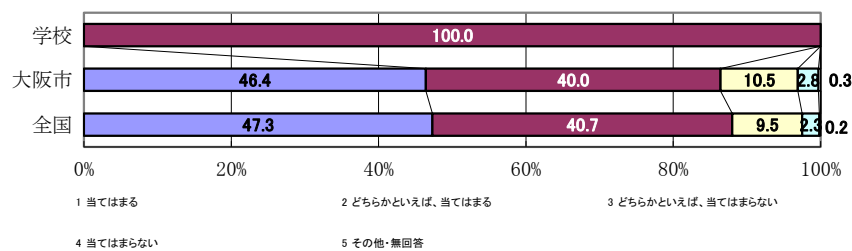
24

読書は好きですか



43

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



学校質問より

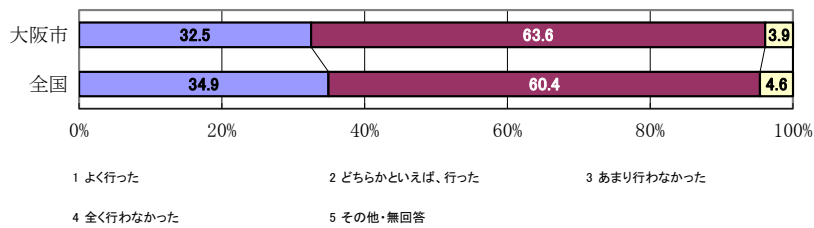
質問番号

質問事項

31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

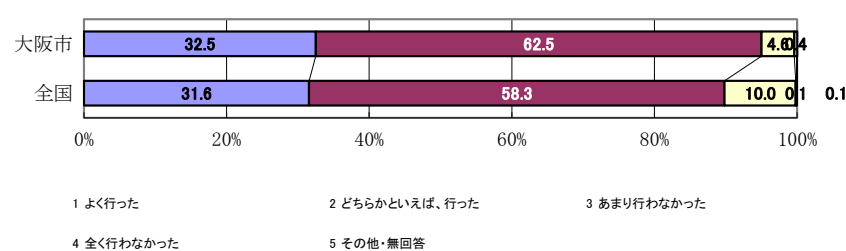
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

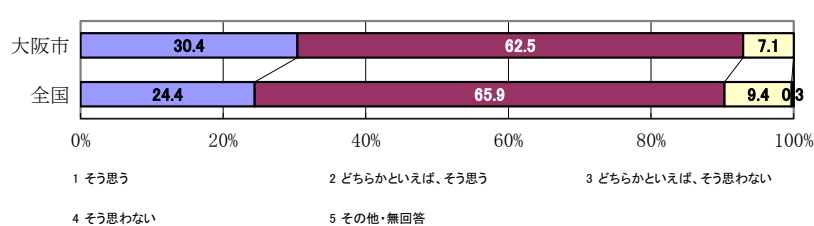
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

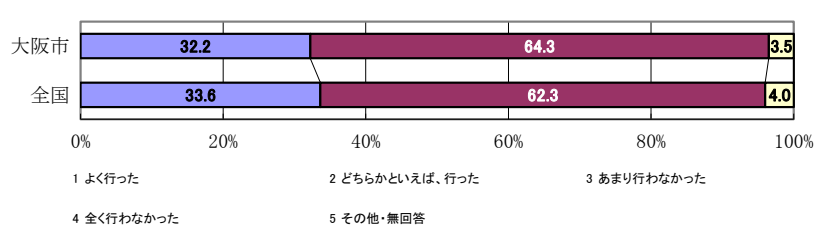
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



44

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

